

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題																								
生徒の夢をかなえる学校	<p>重点目標 1 全職員による共通理解の下で実効あるOJTと共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な生活習慣・学習習慣を身に付け、希望する資格を取得するなどして希望進路の実現を果たしている。</p> <p>(1) 教務、全学科、学年、教科</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>指標</td> </tr> <tr> <td>取組状況</td> <td>家庭学習の意欲を喚起する学習指導の在り方に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>達成状況</td> <td>生徒実態調査の結果、「家庭学習の習慣が身に付いている」と回答した生徒前年度比1割以上増加</td> </tr> </table>		指標	取組状況	家庭学習の意欲を喚起する学習指導の在り方に関する調査研究	達成状況	生徒実態調査の結果、「家庭学習の習慣が身に付いている」と回答した生徒前年度比1割以上増加	<p>自己評価の結果</p> <p>毎授業での宿題指導、小テストの計画的実施、定期的なノート提出による学習状況の把握、定期考査時の学習計画書の活用等の取組をしている教員が多数いる。</p> <p>目標には達していないが、昨年度と比べ、「身につけている」「どちらかといえば身につけている」が1年(30.7→34.1)2年(24.8→23.4)3年(24.7→29.3)と増加傾向にある。</p>	<p>(教務)</p> <p>1・3年生では5ポイント近く上昇した。それに対して2年生については、昨年度よりポイントを下げている。中だるみしやすい学年をどうするかを含めて組織的な対応が必要である。</p>																		
		指標																									
	取組状況	家庭学習の意欲を喚起する学習指導の在り方に関する調査研究																									
	達成状況	生徒実態調査の結果、「家庭学習の習慣が身に付いている」と回答した生徒前年度比1割以上増加																									
	<p>(2) 生徒指導部、進路指導部、学習指導検討チーム、各専門学科</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="7">取組状況</td> <td>生徒指導部：自己指導能力を向上させる生徒指導に関する共通実践の継続</td> <td>登校指導での挨拶強化。日誌指導導入により、特別指導後の生徒の成長変化が把握できた。</td> <td rowspan="7"> <p>(生指)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をする生徒が増加。</li> <li>特別指導を受けた生徒の成長。</li> <li>慎重な言動</li> </ul> <p>(進路・学習指導検討チーム)</p> <p>多様な進路希望に対してより効果的な指導の在り方を検討する必要がある。</p> <p>(生経) 学科経営のありかたについては、地域が求める生産経済科のあり方や連携構築の推進、多様な生徒に対する教育内容を吟味・精選しながら検討したい。</p> <p>(食調) 生徒の進路実現に有効な取組は今後も継続して行っていく。</p> <p>※学科経営シラバスについては4学科の教育の特徴を踏まえつつ、今一度キャリア教育の観点からどうすべきか検討したい。とくに3年間を見通したキャリア教育の在り方については、実施内容や計画性等について見直す必要がある。</p> </td> </tr> <tr> <td>進路指導部：計画的・組織的進路指導のための「キャリア教育プログラム」の策定</td> <td>進路年間指導計画の中に記載している。</td> </tr> <tr> <td>学習指導検討チーム：計画的・組織的進学指導のための「進学指導シラバス」の策定</td> <td>作成していない。</td> </tr> <tr> <td>全専門学科：成果を継承する持続可能な学科経営のための「学科経営シラバス」の策定</td> <td> <p>(生経) 作成していない。</p> <p>(環創) 作成していない。</p> <p>(食調) 学習(科内規含む)、まごの店・まごの店、外部連携、資格取得、コンクール応募、衛生指導、生徒募集、進路指導、学習経費の扱い等、学科のあゆみについて作成していた「覚え」を「シラバス」として整理した。</p> </td> </tr> <tr> <td>生産経済科：資格取得に向けた指導の継続と普通科・進路指導部との連携による進学希望生徒対象の課外補習の充実</td> <td>危険物取扱者資格の指導では、放課後に年間18回実施し、乙種全類取得を含むのべ10人の合格。農業技術検定3級(H27年度合格者42名)の継続指導他、全商ビジネス文書・情報処理の継続的取り組みを行った。進学希望者には、普通科・進路指導部と連携し補習(数学・英語・面接等)を実施。</td> </tr> <tr> <td>環境創造科：国家試験・公務員試験合格に向けた指導教員の研修機会の確保とノウハウの継承</td> <td>研修については実施した。ノウハウの継承についても、徐々に進めている。</td> </tr> <tr> <td>食物調理科：インターンシップ、食品共同開発、広報活動の継続</td> <td> <p>○インターンシップ</p> <p>2年生が夏季、春季に5日間実施</p> <p>その他、長期休業中に自主的に研修を行った。</p> <p>○食品共同開発</p> <p>今年度、新たに松阪鶏焼き肉隊と「味噌だれ」、井村屋と「抹茶アイス」「松阪牛まん」、小涌園とバイキングメニューを行った。</p> <p>○広報活動</p> <p>Webページ、チラシ等で積極的に情報公開を行った。</p> </td> </tr> <tr> <td>達成状況</td> <td>希望する進路を実現した専門学科の3年生9割以上</td> <td> <p>生経：進学24%、就職68% (残り8%は家事都合による)</p> <p>環創：進学10%、就職90%</p> <p>進学：大学2名、専門学校2名、就職：公務員24名、鉄道5名、関連企業1名、一般企業1名、未定5名</p> <p>食調：進学31.6%、就職63.2% (うち食関連 進学91.7% 就職100%)</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>(3) 教務、全教科</p> <table border="1"> <tr> <td>取組状況</td> <td>教科を越えた参加型公開授業による授業研究の継続</td> <td rowspan="2"> <p>例年通り、参加型公開授業による授業研究の継続ができた。</p> <p>職員満足度調査は実施できていない。</p> </td> </tr> <tr> <td>達成状況</td> <td>職員満足度調査の結果、学習指導に関する指導力が向上したと回答した教員8割以上</td> </tr> </table> </td> <td> <p>アクティブラーニングを取り入れていれ、各自の授業のスキルの向上を目指す</p> </td> </tr> </table>	取組状況	生徒指導部：自己指導能力を向上させる生徒指導に関する共通実践の継続	登校指導での挨拶強化。日誌指導導入により、特別指導後の生徒の成長変化が把握できた。	<p>(生指)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をする生徒が増加。</li> <li>特別指導を受けた生徒の成長。</li> <li>慎重な言動</li> </ul> <p>(進路・学習指導検討チーム)</p> <p>多様な進路希望に対してより効果的な指導の在り方を検討する必要がある。</p> <p>(生経) 学科経営のありかたについては、地域が求める生産経済科のあり方や連携構築の推進、多様な生徒に対する教育内容を吟味・精選しながら検討したい。</p> <p>(食調) 生徒の進路実現に有効な取組は今後も継続して行っていく。</p> <p>※学科経営シラバスについては4学科の教育の特徴を踏まえつつ、今一度キャリア教育の観点からどうすべきか検討したい。とくに3年間を見通したキャリア教育の在り方については、実施内容や計画性等について見直す必要がある。</p>	進路指導部：計画的・組織的進路指導のための「キャリア教育プログラム」の策定	進路年間指導計画の中に記載している。	学習指導検討チーム：計画的・組織的進学指導のための「進学指導シラバス」の策定	作成していない。	全専門学科：成果を継承する持続可能な学科経営のための「学科経営シラバス」の策定	<p>(生経) 作成していない。</p> <p>(環創) 作成していない。</p> <p>(食調) 学習(科内規含む)、まごの店・まごの店、外部連携、資格取得、コンクール応募、衛生指導、生徒募集、進路指導、学習経費の扱い等、学科のあゆみについて作成していた「覚え」を「シラバス」として整理した。</p>	生産経済科：資格取得に向けた指導の継続と普通科・進路指導部との連携による進学希望生徒対象の課外補習の充実	危険物取扱者資格の指導では、放課後に年間18回実施し、乙種全類取得を含むのべ10人の合格。農業技術検定3級(H27年度合格者42名)の継続指導他、全商ビジネス文書・情報処理の継続的取り組みを行った。進学希望者には、普通科・進路指導部と連携し補習(数学・英語・面接等)を実施。	環境創造科：国家試験・公務員試験合格に向けた指導教員の研修機会の確保とノウハウの継承	研修については実施した。ノウハウの継承についても、徐々に進めている。	食物調理科：インターンシップ、食品共同開発、広報活動の継続	<p>○インターンシップ</p> <p>2年生が夏季、春季に5日間実施</p> <p>その他、長期休業中に自主的に研修を行った。</p> <p>○食品共同開発</p> <p>今年度、新たに松阪鶏焼き肉隊と「味噌だれ」、井村屋と「抹茶アイス」「松阪牛まん」、小涌園とバイキングメニューを行った。</p> <p>○広報活動</p> <p>Webページ、チラシ等で積極的に情報公開を行った。</p>	達成状況	希望する進路を実現した専門学科の3年生9割以上	<p>生経：進学24%、就職68% (残り8%は家事都合による)</p> <p>環創：進学10%、就職90%</p> <p>進学：大学2名、専門学校2名、就職：公務員24名、鉄道5名、関連企業1名、一般企業1名、未定5名</p> <p>食調：進学31.6%、就職63.2% (うち食関連 進学91.7% 就職100%)</p>	<p>(3) 教務、全教科</p> <table border="1"> <tr> <td>取組状況</td> <td>教科を越えた参加型公開授業による授業研究の継続</td> <td rowspan="2"> <p>例年通り、参加型公開授業による授業研究の継続ができた。</p> <p>職員満足度調査は実施できていない。</p> </td> </tr> <tr> <td>達成状況</td> <td>職員満足度調査の結果、学習指導に関する指導力が向上したと回答した教員8割以上</td> </tr> </table>	取組状況	教科を越えた参加型公開授業による授業研究の継続	<p>例年通り、参加型公開授業による授業研究の継続ができた。</p> <p>職員満足度調査は実施できていない。</p>	達成状況	職員満足度調査の結果、学習指導に関する指導力が向上したと回答した教員8割以上	<p>アクティブラーニングを取り入れていれ、各自の授業のスキルの向上を目指す</p>
	取組状況		生徒指導部：自己指導能力を向上させる生徒指導に関する共通実践の継続	登校指導での挨拶強化。日誌指導導入により、特別指導後の生徒の成長変化が把握できた。		<p>(生指)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をする生徒が増加。</li> <li>特別指導を受けた生徒の成長。</li> <li>慎重な言動</li> </ul> <p>(進路・学習指導検討チーム)</p> <p>多様な進路希望に対してより効果的な指導の在り方を検討する必要がある。</p> <p>(生経) 学科経営のありかたについては、地域が求める生産経済科のあり方や連携構築の推進、多様な生徒に対する教育内容を吟味・精選しながら検討したい。</p> <p>(食調) 生徒の進路実現に有効な取組は今後も継続して行っていく。</p> <p>※学科経営シラバスについては4学科の教育の特徴を踏まえつつ、今一度キャリア教育の観点からどうすべきか検討したい。とくに3年間を見通したキャリア教育の在り方については、実施内容や計画性等について見直す必要がある。</p>																					
			進路指導部：計画的・組織的進路指導のための「キャリア教育プログラム」の策定	進路年間指導計画の中に記載している。																							
			学習指導検討チーム：計画的・組織的進学指導のための「進学指導シラバス」の策定	作成していない。																							
			全専門学科：成果を継承する持続可能な学科経営のための「学科経営シラバス」の策定	<p>(生経) 作成していない。</p> <p>(環創) 作成していない。</p> <p>(食調) 学習(科内規含む)、まごの店・まごの店、外部連携、資格取得、コンクール応募、衛生指導、生徒募集、進路指導、学習経費の扱い等、学科のあゆみについて作成していた「覚え」を「シラバス」として整理した。</p>																							
			生産経済科：資格取得に向けた指導の継続と普通科・進路指導部との連携による進学希望生徒対象の課外補習の充実	危険物取扱者資格の指導では、放課後に年間18回実施し、乙種全類取得を含むのべ10人の合格。農業技術検定3級(H27年度合格者42名)の継続指導他、全商ビジネス文書・情報処理の継続的取り組みを行った。進学希望者には、普通科・進路指導部と連携し補習(数学・英語・面接等)を実施。																							
環境創造科：国家試験・公務員試験合格に向けた指導教員の研修機会の確保とノウハウの継承			研修については実施した。ノウハウの継承についても、徐々に進めている。																								
食物調理科：インターンシップ、食品共同開発、広報活動の継続		<p>○インターンシップ</p> <p>2年生が夏季、春季に5日間実施</p> <p>その他、長期休業中に自主的に研修を行った。</p> <p>○食品共同開発</p> <p>今年度、新たに松阪鶏焼き肉隊と「味噌だれ」、井村屋と「抹茶アイス」「松阪牛まん」、小涌園とバイキングメニューを行った。</p> <p>○広報活動</p> <p>Webページ、チラシ等で積極的に情報公開を行った。</p>																									
達成状況	希望する進路を実現した専門学科の3年生9割以上	<p>生経：進学24%、就職68% (残り8%は家事都合による)</p> <p>環創：進学10%、就職90%</p> <p>進学：大学2名、専門学校2名、就職：公務員24名、鉄道5名、関連企業1名、一般企業1名、未定5名</p> <p>食調：進学31.6%、就職63.2% (うち食関連 進学91.7% 就職100%)</p>																									
<p>(3) 教務、全教科</p> <table border="1"> <tr> <td>取組状況</td> <td>教科を越えた参加型公開授業による授業研究の継続</td> <td rowspan="2"> <p>例年通り、参加型公開授業による授業研究の継続ができた。</p> <p>職員満足度調査は実施できていない。</p> </td> </tr> <tr> <td>達成状況</td> <td>職員満足度調査の結果、学習指導に関する指導力が向上したと回答した教員8割以上</td> </tr> </table>	取組状況	教科を越えた参加型公開授業による授業研究の継続	<p>例年通り、参加型公開授業による授業研究の継続ができた。</p> <p>職員満足度調査は実施できていない。</p>	達成状況	職員満足度調査の結果、学習指導に関する指導力が向上したと回答した教員8割以上	<p>アクティブラーニングを取り入れていれ、各自の授業のスキルの向上を目指す</p>																					
取組状況	教科を越えた参加型公開授業による授業研究の継続	<p>例年通り、参加型公開授業による授業研究の継続ができた。</p> <p>職員満足度調査は実施できていない。</p>																									
達成状況	職員満足度調査の結果、学習指導に関する指導力が向上したと回答した教員8割以上																										

地域と共に歩む学校	<p>重点目標 2 「地域と共に歩む学校づくり」を活性化するため、学校関係者評価を有効に活用しつつ、各学科の特性を生かした学科横断的な取組を地域と連携しながら多角的に展開し、その様子や成果を積極的に情報発信することにより、「相可高校ブランド」を創り上げている。</p> <p>(1) 管理職、学科、学年、分掌主任</p> <table border="1" data-bbox="310 534 932 765"> <tr> <td>取組状況</td> <td>学校関係者評価委員による学校教育活動に関する把握の強化</td> </tr> <tr> <td>達成状況</td> <td>学校関係者評価委員会による評価結果の次年度『学校経営の改革方針』への相当程度の反映</td> </tr> </table> <p>(2) 各専門学科</p> <table border="1" data-bbox="310 795 932 1199"> <tr> <td rowspan="3">取組状況</td> <td>生産経済科・食物調理科：相可高校オリジナル商品の共同開発を通じた持続可能な学科間連携の在り方に関する実践研究の継続</td> </tr> <tr> <td>生産経済科・食物調理科：地域の多様な主体との連携による商品の共同開発及び地域開放講座の継続実施を通じた持続可能な地域連携の在り方に関する実践研究の継続</td> </tr> <tr> <td>環境創造科：地域の多様な主体との連携による現場学習の強化</td> </tr> <tr> <td>達成状況</td> <td>「相可高校ブランド」創設の基盤整備</td> </tr> </table>	取組状況	学校関係者評価委員による学校教育活動に関する把握の強化	達成状況	学校関係者評価委員会による評価結果の次年度『学校経営の改革方針』への相当程度の反映	取組状況	生産経済科・食物調理科：相可高校オリジナル商品の共同開発を通じた持続可能な学科間連携の在り方に関する実践研究の継続	生産経済科・食物調理科：地域の多様な主体との連携による商品の共同開発及び地域開放講座の継続実施を通じた持続可能な地域連携の在り方に関する実践研究の継続	環境創造科：地域の多様な主体との連携による現場学習の強化	達成状況	「相可高校ブランド」創設の基盤整備	<p>3回実施し、第2回では授業の様子を参観していただいた。</p> <p>第3回学校関係者評価委員会で学校自己評価について受けた評価の結果は、右欄に示した成果と課題(全体)を踏まえた内容とともに、次年度「学校経営の改革方針」に反映する。</p> <p>(生経、食調) 県教委の事業「若き匠育成事業」の3年目を迎え、開発した商品を校内販売、「まごの店」で販売した。3月の学習成果発表会において、成果を報告する予定。 宇宙大豆味噌づくり、宇宙大豆味噌を使ったチーズケーキ、伊勢いもモンブラン、松阪牛弁当、伊勢茶による健康茶、「イチゴ 次郎柿 温州ミカン 梅」を加工、商品化(両科で「SSチーム」)、販売することが出来た。</p> <p>①バイオマス資源の再利用研究②実習服の開発 ③伊勢イモの協働研究④コスメ商品の開発 ⑤宇宙大豆栽培プロジェクト⑥アゼオトギリの調査研究など、地域農産物のPRや地域産業と共に歩む持続可能な実践研究を継続することが出来た。また、地元中学校の農業体験講座や松阪牛の講習会、先進肥育農家の見学、園芸福祉協会の講習会、バイオマスの調査・研究に取り組むに当たり、京都大学の土井先生、株式会社リナジェンより講師をむかえての講習会、6次産業化について研修等を行った。</p> <p>(環創) 三重県建設業協会、国土交通省にご協力をいただき、現場学習を行った。</p>	<p>第3回関係者評価委員会でいただいた意見等も成果・課題としてまとめ、会議後に記述する予定。</p> <p>(生経) 持続可能な地域の在り方を模索する上で、現代の農業を「産業」として定着・発展させるためには、環境問題との関わりを無視することはできない。この点を踏まえ、今後は、循環型農業がバイオマス発電等に具体的にはどのように貢献できるか等に重点を置き、研究を継続していきたい。</p> <p>(食調) 相可高校ブランドとして、生産経済科と連携して今後も商品開発を行っていくことが課題。</p> <p>(環創) 1Gが一回、2G二回の現場学習を行った。生徒の意識付けとなった。</p> <p>(管理職) 商品開発による相可高校ブランドのさらなる拡充を図るとともに、相可高校で学ぶこと自体がブランドになるように、全校あげて相可高校ブランド化に取り組む必要がある。</p>
	取組状況	学校関係者評価委員による学校教育活動に関する把握の強化											
達成状況	学校関係者評価委員会による評価結果の次年度『学校経営の改革方針』への相当程度の反映												
取組状況	生産経済科・食物調理科：相可高校オリジナル商品の共同開発を通じた持続可能な学科間連携の在り方に関する実践研究の継続												
	生産経済科・食物調理科：地域の多様な主体との連携による商品の共同開発及び地域開放講座の継続実施を通じた持続可能な地域連携の在り方に関する実践研究の継続												
	環境創造科：地域の多様な主体との連携による現場学習の強化												
達成状況	「相可高校ブランド」創設の基盤整備												
皆がやりがいを実感する学校	<p>重点目標 3 教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能して活気のある明るい組織風土が醸成されており、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足している。</p> <p>(1) 管理職・学校経営品質推進委員会、学校安全衛生委員会</p> <table border="1" data-bbox="310 1982 932 2439"> <tr> <td rowspan="4">取組状況</td> <td>保護者満足度調査の改善</td> </tr> <tr> <td>ワークライフバランス研修の実施</td> </tr> <tr> <td>職員満足度向上に関するオンサイトミーティングの実施</td> </tr> <tr> <td>学校経営品質推進委員会主導による学校運営改善の継続</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">達成状況</td> <td>学校安全衛生委員会主導による過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組の継続</td> </tr> <tr> <td>職員満足度調査の学校満足度に関する項目で「概ね満足」以上と回答した職員7割以上</td> </tr> </table>	取組状況	保護者満足度調査の改善	ワークライフバランス研修の実施	職員満足度向上に関するオンサイトミーティングの実施	学校経営品質推進委員会主導による学校運営改善の継続	達成状況	学校安全衛生委員会主導による過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組の継続	職員満足度調査の学校満足度に関する項目で「概ね満足」以上と回答した職員7割以上	<p>調査用紙を変更し実施した。</p> <p>長期休業中や定期考査時等に、業務に差し支えない範囲で積極的に年休を取得するよう努めた。</p> <p>県教委の職場環境改善支援事業を10月に実施し、教職員のストレスを少しでも軽減し、心身ともに健康な状態で、より教育に専念できる環境づくりに努めた。</p> <p>9月から改善意見等を集約し、各関係分掌及び学校経営品質推進委員会での検討を経て、職員会議で話し合い、全職員参画による学校運営改善の流れをシステム化した。</p> <p>定期考査中の「会議なし」「定時退校」「積極的な年休取得」に取り組んだ。</p> <p>教職員満足度調査は実施できていないが、職員との対話からは「概ね満足」と感じている職員が多いように思う。</p>	<p>・PTA 総会や PTA 研修会への参加者が他校に比べて非常に多く、学校が信頼されていることを痛感する。安全安心、学力の向上等を中心にさらに相可高校が活性化するようにすべての教育活動の充実を図る必要がある。(相可高校ブランドの確立を目指す必要がある。)</p>		
取組状況	保護者満足度調査の改善												
	ワークライフバランス研修の実施												
	職員満足度向上に関するオンサイトミーティングの実施												
	学校経営品質推進委員会主導による学校運営改善の継続												
達成状況	学校安全衛生委員会主導による過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組の継続												
	職員満足度調査の学校満足度に関する項目で「概ね満足」以上と回答した職員7割以上												

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"><li>・各種の教育成果や地域と連携した様々な特色ある教育活動により学校が地域から信頼され必要とされている。(活動が継続されている。)</li><li>・各種の教育活動が地域の活性化に貢献している。</li><li>・各学科による特色ある指導が、生徒の学力の定着・向上に結びついている。(資格取得、大会入賞、商品開発、実習、ボランティア等)</li><li>・生徒、保護者からの多様な進路希望に応え、丁寧な進路指導を行った結果、進学・就職ともに良好な結果であった。(進路実績は上述の通り)</li><li>・理解を促す丁寧な指導等により、何事にも誠実で意欲的に取り組み、思いやり気持ちを持って仲間とともに活動する生徒の育成が行われている。</li><li>・教育活動に対する保護者の理解があり、充実した協力や支援を得ることができる。</li></ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"><li>・相可高校で学ぶことによりどんな成長や飛躍が望めるのか等、相可高校で学ぶことで得られる具体的な強みをさらに明確に中学生にアピールできるよう、相可高校ブランドを確立する必要がある。また、そのためには組織として何をすべきか、検討する必要がある。例えば、進路指導について言えば、多様な進路希望に対するより機能的で効果的な指導の在り方について研究・検討する必要がある。(3年間を見越した進路指導の在り方、より高い学力を身につけさせるための指導方法の確立、グローバルな視野を持ちながらローカルで活躍できる人材の育成等)</li></ul>

(3)学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	

(4)組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組